政治はだれのために？

日之影町　　飯干　樹

選挙に行こう。そう言って、自ら進んで選挙にいく若者は、今、一体どれだけいるのでしょうか。

私の初めての選挙は、祖父に無理矢理連れられ、何も考えずに投票をしたため、あまり記憶にも残っていません。言われるがまま選挙に行き、何も考えずに、聞いたことのある候補者に投票をしました。同じような経験をしたことがある人は少なくないと思います。そもそも選挙に行っていないという友人や知人もいました。日々のニュースやSNS等で目にする政治に関する記事は、国民に不信感を与えるようなものが多く、あまり、良い印象はありません。若年層の投票率が低い要因は、政治に対する“無関心”と“諦め”であると感じています。

「誰に投票したらいいか分からんし、投票しても結局何も変わらんよね～」
そんな声があちらこちらから聞こえます。

しかし、みなさん、考えてみて下さい。上がり続ける物価に追いつかない実質賃金、さらに税金はあがる一方。生活は一向に良くならない今の暮らしのなか、なにも行動しないまま、生活し続けますか？私は、改めて、“政治はだれのためか”を考えたとき、選挙こそがいまの生活に対して意思表示ができる機会だと気付いたのです。その瞬間どこか他人事だった選挙が身近に感じ、無知のままではいられないと思いました。

選挙と聞くと堅苦しいイメージがありますが、お隣の韓国では、SNS動画を利用し、政策や人柄をアピールしたり、ダンスパフォーマンスで若年世代をターゲットにした取り組みを行っているそうです。それにより若者の投票率が7割以上という効果を得ています。アメリカではスーパーやコインランドリーに投票箱を設置し、生活リズムの中に取り込む工夫を行っているそうです。このように外の国では、選挙が身近に感じられる取り組みが多いように感じます。日本では、商業施設等への期日前投票所の設置や、投票所への移動支援

などの取り組みが行われていますが、とくに若年層に向けた取り組みはまだ少ないように感じます。

アメリカの大統領選挙での演説の様子をテレビでみたことがありますか。演説者の周りを取り囲む大勢の観衆は、日本では見られない光景です。もちろん日本と選挙の仕組みが異なる部分があるため一概には言えませんが、若年層だけでなく、国民一人ひとりの政治、また選挙に対しての意識の違いがあると思います。

このように今の日本は他の国と比べて、選挙に対する取り組みや国民一人ひとりの意識の低さが、若年層の政治離れに影響していると私は思います。政治に無関心なのは、政治について考えなくても、何不自由なく生活ができているとも捉えることができます。しかし私は無関心のままではいられません。

少子高齢化が進むこの日本で、若者の負担は大きくなっています。このままだと私たちの次の世代はもっと苦しい思いをすることになります。また、世界情勢により日本も影響を受け、生活が変わってきて、他人事ではなくなっています。

それでも皆さんは無関心のままでいられますか。だれに投票しても変わらないからと諦め、ただ指をくわえて、暮らしが良くなるのをまちますか。投票は個人の自由です。しかし政治はまってくれません。選挙に行っている人は、今の生活を少しでも良くしたいと、投票用紙に願いを込めて、投票しています。今の日本を変えられる可能性があるとしたら、私たち若者の小さな一票です。いまは小さな私たちの一票も、積み重なれば大きな力になると信じています。

きっかけはいつもちょっとしたことから訪れます。まずは自分の目で、耳で、今の政治に触れてみることから始めてみませんか。それが明るい未来のための第一歩です。